

## 認知症対応型共同生活介護 認知症グループホームくつろぎ

### 1 基本方針

認知症になっても入居者一人ひとりが個人として尊重され、住み慣れた地域の中で築いてきた暮らしを大切にしながら、その人らしく生活できることを目指す。

### 2 今年度重点事業目標

#### (1) 専門的ケアの実施と個別支援

- ア 認知症の正しい理解と知識の習得に努め、入居者の機能に応じて寄り添った支援を行う。
- イ 本人の思いやニーズの把握に努め、出来ること、出来ないことをアセスメントし、入居者のもっている能力を十分に活用出来るような支援を行う。
- ウ 個々が役割を持ち、今までの暮らしが維持できるような活動を日々取り入れる。
- エ 通院や往診、平常時の健康管理、看取り体制整備等、事業所とかかりつけ医や地域の医療機関との連携を図る。

#### (2) 職員の資質向上と人材育成

- ア 重度化・ターミナルケア等の介護技術の底上げを目指す。内部研修（OJT）、外部研修（OFF-JT）や相互派遣研修をとおして必要な知識や技術を習得する。
- イ 各種資格取得へのチャレンジや自己啓発を推進する。

#### (3) 地域社会との連携と認知症理解への取り組み

- ア 2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、くつろぎの情報を発信し、地域情報に接する。
- イ 地域との交わりや関係作りに努め、地域の一員として暮らせるよう、地域へ情報発信し地域交流を図る。
- ウ 感染対策をしながら、認知症カフェに参加し、地域の方とふれあい活動を行う。
- エ くつろぎ便りの送付、タブレットでの面会の推進など家族との連携を密にし、信頼関係の構築に努める。
- オ 近隣の協力も得ながら災害時の対応が迅速に行えるよう、防災訓練や緊急時対応訓練を実施し、入居者の安全な生活を継続する。

#### (4) 経営基盤の確立

医療との連携を図りながら健康管理に努め、稼働率97%以上を目指す。

#### (5) 労働環境の整備

- ア 職員の体調管理や相談体制の整備に努め、風通しの良い職場を目指す。
- イ 介護ロボットやタブレット端末等のICT技術の活用により、リスクの軽減を図ると共に、職員の負担軽減を推進する。